



「天の時・地の利・人の輪」こそが 社会変革の好機に！

大阪成蹊学園の「中興の祖」ともいえる、起死回生のV字回復を図られた石井茂理理事長の大学経営者としての言葉の中に「立ち止まってはいけない。考え動き続けることで、難しい局面を開くことができる」という信念があります。

私自身も常に大局を見据えながらち密に戦略をねって、新しい局面を開くことで、変革の時代の学者知事としての役割を全うしてきました。石井理事長の信念におおいに共感をしております。

その中で今、びわこ成蹊スポーツ大学でいかに新しい局面を開いていくのか。原点にかえりたいと思います。

この11月から、大阪成蹊学園の理事の皆さんと協力しながら、びわこ成蹊スポーツ大学の豊田、鳥羽両副学長、若吉教授を中心とした、3若手教員とともに、主要課長も協力し、「将来構想委員会」を発足させました。

同委員会では、子どもたちへのスポーツを通じた教育力を強化することなどについても議論しています。2011年に制定されたスポーツ基本法では、スポーツは「次代を担う青少年の体力を向上させるとともに、他者を尊重しこれと協同する精神、公正さと規律を尊ぶ態度や克己心を培い、実践的な思考力や判断力を育む等人格の形成に大きな影響を及ぼすものである」とされています。特に人間の神経系の発達5歳までに80%ほど完成するという理論に照らせば、子どもスポーツ力

「100年の計」をふまえて、びわこ湖畔大学の 将来構想が本格的に始動！

の強化は、滋賀県のみならず、日本全体に貢献できる分野です。

このような短期的戦術とあわせて、私自身は、びわこ成蹊スポーツ大学が今後歴史的に未永く存在感を発揮していくためには、2つの原点から学ぶことが必要と考えています。1つは「背中に比良山、前に琵琶湖」という自然の魅力を全面的に取り入れた、自然史的な立地の美しさを活かす戦略です。

私自身、過去数十年、世界各地の湖沼地域をまわり、湖と人間のかかわりを研究してきました。その中でも、琵琶湖の風景と最も似通っているのはスイスのレマン湖だと思っています。そのレマン湖とつながるビール湖畔に、スイス国立マッグリゲンスポーツ大学があります。

この8月末にマッグリゲンスポーツ大学を訪問して、スポーツ大学の運営について学びました。何よりも湖畔の立地を活かして、スポーツ選手の育成・輩出とからめて、学内で美しいホテル経営をして、アカデミックなスポーツ研究に体験型のスポーツ・ツーリズムといわれる観光を結び付けていることが印象的でした。

2つ目の原点は、人為的な歴史です。今のびわこ成蹊スポーツ大学が立地する北比良・近江舞子から湖西の今津・高島には、琵琶湖の観光やスポーツの歴史を考える時に、今からほぼ100年前に大きな2つのエポックがありました。

1つは1916年(大正5年)です。白砂青松のこの地に、野外教育の祖ともいえるボーイスカウトの中野忠八氏が、はじめて天幕を張ったと記されています。近江



舞子の白汀園の中に石碑が残されています(写真)。実は、中野忠八さんは京都五条の薬屋さんと、その息子さんの中野卓さんは日本社会学会の元会長で私自身が私淑をした恩師の一人でもあります。奇遇なご縁を感じます。

2つ目は「琵琶湖周航の歌」の誕生です。1917年(大正6年)、当時の第三高等学校(今の京都大学)に入学した小口太郎がボートで琵琶湖一周中に思いついたというのがこの歌です。1970年代以降、加藤登紀子さんが歌い続けてくださり、今につながっています。加藤登紀子さんとは親友で、2015年、登紀子さんのデビュー50周年記念コンサートを琵琶湖畔で行うことを今、計画しています。

さて、「琵琶湖周航の歌」の二番に次のような歌詞があります。

松は緑に 砂白き
雄松(おまつ)が里の 乙女子は
赤い椿の 森陰に
はかない恋に 泣くとかや

湖西、近江舞子をびわこ成蹊スポーツ大学の大学力でいかに元気にしていくか、楽しいことをいろいろ考えていきたいです。この「雄松が里の乙女子の涙」を未来への希望にかえていくにはどうしたらいいのか？ みなさんのお知恵をいただきたいです。

スポーツによる女性の力を社会に！

未来を見据えて、琵琶湖畔に「女性スポーツの拠点」をつくりたいと思っています



ます。「サッカー」「水球」などに加えて、「女子野球」「女子ラグビー」のようなチームスポーツを核に、「陸上」「柔道」や琵琶湖の水辺を活かした「カヌー」「ボート」「ヨット」「ウィンドサーフィン」などのスポーツの華を咲かせたいですね！ もちろん、これまでに頑張ってくださいました男性アスリートや先輩のお力はおおきな蓄積です。

大阪成蹊学園はそもそも81年前の1933(昭和8)年、女性教育の拠点として始まったのです。今、安倍政権は、「女性活躍による経済再生」をアベノミクスの大きな柱、戦略として位置づけています。女性活躍での大きな壁は、席を用意しても、なかなかその場に座ってくれる女性が現れないことです。実力はあっても、リーダーシップが発揮できない女性の内面心理。「存在が意識を規定する」と、かのマルクスも言いました。リーダーの役割を経験することで、組織や社会のリーダーが育っていきます。チームスポーツでリーダーとフォロワー、両方の役割の意味やあり方を学びながら、組織対応に能力を発揮する女性が増えてくれることでしょう。おおいに期待したいです。

びわこ成蹊スポーツ大学が発足して11年。人口減少化が進む中で、否応なくすすむ大学への逆風。しかし、スポーツ分野には追い風も吹いています。また社会の女性参画にも追い風が吹いています。2020年の東京オリンピック・パラリンピックの誘致、2019年のラグビーワールドカップもありです。2021年には関西広域連合としてワールドマスターズゲームズの誘致。そして地元滋賀県では2024年に二巡目国体が決まっています。

びわこ湖西の地から、男子にくわえて女子のスポーツ力を育て、発信していこうではありませんか！！男子と両輪で、のびのびと女子のスポーツ力を育てるため、教職員の皆さん、学生の皆さんと協働してすすめていきましょう！

びわこ成蹊スポーツ大学
学長 嘉田由紀子

来年4月
完成予定

大阪成蹊大学
芸術学部

芸術学部 南館増改築中



大阪成蹊大学芸術学部は、南館の敷地内に3階建て校舎を平成27年4月完成に向けて増築中です。

近年の大阪成蹊大学および大阪成蹊短期大学の入学生増加で、普通教室や食堂の座席数不足が課題となっていました。なかでも芸術学部が使用する南館では多くの授業が行われていますが、実習室や特殊教室が多く、講義を行う普通教室は二つしかありませんでした。今回、増築する新校舎の2階部分にPC教室及びア

クティブラーニング教室、3階部分には実習室を新しく作り、既存校舎に普通教室を増設します。

また、新校舎1階には座席数100席の新食堂をオープンします。現在の学生食堂はメインキャンパスにあり、芸術学部校舎から離れていました。新食堂完成により、各種ランチメニューを充実させるとともに、学生ホールとして憩いの場を提供し、さらなる学生サービスの向上を図ります。

日本留学アワーズ2014

「留学生に勧めたい進学先」として選出



大阪成蹊大学が、「日本留学アワーズ2014」の大学文科系・西日本の部で入賞しました。全国の日本語学校の教職員を対象とした「留学生に勧めたい進学先」アンケートをもとに決定する賞で、平成26年度日本語学校教育研究大会(一般財団法人日本語教育振興協会主催)実行委員会が実施。大阪成蹊大学は実学教育の充実と留学生の就職率の高さが評価され、他の5校(愛知大学、関西大学、関西学院大学、四日市大学、立命館アジア太平洋大学)とともに選ばれました。

表彰式は8月4日(月)、国立オリンピック記念青少年総合センター(東京都渋谷区)で行われ、表彰式に出席したマネジメント学部鍛冶致准教授は「地道に取り組んできた成果。今後も日本語学校の先生方に安心して学生を送ってもらえるような大学を目指したい」と抱負を語りました。

卒業生の活躍

大阪成蹊短期大学



料理研究家 浜内 千波さん

●プロフィール● 浜内 千波(はまうち・ちなみ)

1955年徳島県生まれ。大阪成蹊女子短期大学家政学科栄養コース卒業後、OLを経て岡松料理研究所へ入所。1980年ファミリークッキングスクールを開校。「料理は、もっともっと夢のある楽しいもの」をモットーに、雑誌や書籍をはじめ、テレビ、ラジオ、講演会、各種の料理イベントで活躍中。自身の経験をもとに考案したグイエットメニュー、野菜料理は特に定評があり、主宰の料理教室では「家族の健康」「笑顔のある会話」に役立つ家庭料理を教えている。大阪成蹊短期大学オープンキャンパスの栄養コース特別プログラムや、大阪ガス(株)との共催による食育シンポジウムで来学。本学で今年6月5日(木)に開催された楽天トラベル主催の「朝ごはんフェスティバル® 2014西日本大会」では審査員として参加。自身のHP「浜内千波の楽しいキッチン」 <http://www.chinamisan.com/>

お茶の間でも人気の料理研究家、浜内千波さん。テレビ番組や料理ビデオの出演、講演会、雑誌や書籍の執筆などでクリエイティブな活動をされている大阪成蹊短期大学卒業生の浜内さんにお話を伺いました。

私の故郷の徳島県から近く、学校の規模も大きくて教育内容もしっかりしているように思い、大阪成蹊女子短期大学(当時)に入学することを決めました。卒業後に将来の希望を叶えられる場所の1つになると思いました。入学後は、学生数が多くても学生へのフォローがしっかりしていたので安心して大学生生活を送ることができ、たくさんの思い出ができました。2年間の学生生活の中でストレスを一度も感じたこともなく、楽しく充実した時間を大阪成蹊で過ごすことができました。

卒業後は、栄養士の免許を取得したので家庭の栄養とおいしさの探求ができる仕事の近道として料理研究家になることを決めました。何よりも人間の生きる基本となっている家庭の毎日の料理を考え、それを発信できる立場にすることにこのうえない喜びを感じています。料理についてしっかりといつまでも勉強していける仕事に就くことができたのはとてもよかったと思っています。

大阪成蹊での2年間で特に印象に残っているのは、非常に重要な栄養の基礎、とりわけ食材の栄養や人間の体の栄養、体の仕組みの

楽しく学びながら得た知識



基礎などを学べたことです。また大人と学生のはざまの時期を、のびのびとした雰囲気この短期大学で過ごすことができ、世間との関わり方の大切さや常識といったことを、勉強を通して学ぶことができたことも大きかったです。

今大学で学んでいる皆さんや、これから大学生になろうという皆さんは、「こんなことがしたい」「こんな人になりたい」という希望や可能性を現実にしていくために、まずアクションを起こすことが大事です。しっかりとした基礎作りをしながら日常生活の中で常識を学びつつ、専門的な知識を勉強する時間も必要になりますので、限られた時間の中で学びを大切に、将来の自分のビジョンや夢、希望といったものにつなげていってください。

世界各国の学校と

国際交流



大阪成蹊短期大学では、グローバルな視野を持つ人材の育成を目指して、さまざまな国際交流活動を行っています。今号ではその一部をご紹介します。

生きた英語を学ぶ—ハワイ

観光学科では9月2日(火)～10日(水)の日程でハワイでの語学研修を行いました。今回の研修の目的は生きた英語を学ぶことで、語学学校やホームステイ先で毎日、英会話を楽しく勉強しました。

さらに、旅行会社の現地支店やホテルの視察、ハワイ州観光局の方のレクチャーを受けるなどして、ハワイの観光産業の現状について理解を深めました。

また、現地大学生との交流やホームステイ先の家族との交流を通して異文化を学び、忘れられない貴重な時間を過ごしました。



卒業作品展で交流—韓国・仁川



総合生活学科食物コースフードコーディネートクラスでは、9月17日(水)～20日(土)の日程で韓国・仁川(インチョン)での海外研修を行いました。今回の研修の主な目的は、仁川にある専門学校“INCHEON CULTURE & ART COLLEGE”の“卒業作品展”において交流を深めることでした。また、韓国の文化に触れることも研修の目的のひとつで、江華島にある江華歴史博物館や江華制赤峰平和展望台、高麗宮址や伝灯寺を見学しました。韓国の食文化だけでなく、歴史などを学ぶことによって韓国を総合的に理解する有意義な研修となりました。

石井理事長、岡本学長らが、台南を訪問しました。式典の前日には、台南応用科技大学の他の協定校(タイ、韓国、マレーシアなど)と情報交換を行い、親交を深めることができました。

式典の後には、卒業生や在校生がデザインした商品を展示販売するショップの見学を行いました。デザイナー支援のしくみなど、本学でも取り入れていきたい工夫が多くありました。



先生への目標まで一歩ずつ



教育学部1期生が入学して約8か月が過ぎました。入学当時の「あどけなさ」が抜け、地に足が着き、落ち着いてまいりました。今回は、10月から実践しました幼稚園、小学校見学実習をはじめ、彼らの近況をお知らせ致します。

「子どもが前に出て、考え方を説明するなんてすごく能動的だと思う。」これは、教育学部1期生が小学校への見学実習を終えた際に、参観した算数の授業について話していた会話の1コマです。この発言には、自ら学ぼうとする子どもたちのよさを感じつつ、先生の指導法に魅力を感じ、小学校の授業を生で観て教師になる意志を再確認した学生の心が映し出されています。

「数学難しい。余弦定理? やったやった! でも忘れてる。」こちらも、教育学部1期生の学生が、教員採用対策として授業外で展開しているエクステンション「算数教師塾」について会話していた際の1コマです。教えることの難しさを実感すると同時に、教員採用試験を乗り越えて先生になる意志を再確認したのではないのでしょうか。

現在の教育学部の学生たちは、「先生になりたい」という夢や希望を持っていた段階から、「こんな先生になりたい」という目標を持つようになり、そのためには、何が必要かを探し求めている時期で



大阪成蹊大学
教育学部



もあります。見学実習を通して、2年生からスタートする「幼児教育コース」と「初等教育コース」の2種類のコースを選択し、エクステンションを通して、教員採用試験合格に必要な態度や能力の獲得を意識しています。この他にも、幼稚園へのインターンシップに備えて、手遊びや読み聞かせを体験できる「幼保エクспレス」や、保育実習に備えて、ピアノを特訓できる「スキルアップ対策」などが授業外で専任教員によって展開されています。

大切に授かった1年生という苗木を教育学部の教員が協働的・探究的に1本1本丁寧に育て上げ、桃李の花が咲く頃には初々しい2種類の花を咲かせることになります。そして、来春入学する学生が、その花々にあこがれて、蹊を成すことでしょう。そのとき、私たち教員も1期生にとって桃李であったと言えるように日々研鑽を積む所存です。

50周年式典に参加—台湾・台南

10月25日(土)に大阪成蹊大学・大阪成蹊短期大学の国際交流協定校である台南応用科技大学の50周年式典参加のために、





10月25日(土)、11月8日(土)に第4、5回の高校のオープンスクールを実施しました。この2日間は、特別企画「ケーキバイキング」の実施日だったこともあり、2日間合計2023名で過去最多の来場者となり、会場は熱気で埋まりました。

本校のオープンスクールは予約をとりませんので正確な予測はできないものの、外部での説明会や問い合わせの様子で、たくさんの来場者が来てくださることが事前に予想できました。多くの方が来てくださるのはうれしいことですが、一方で、人数が多いがゆえに来場者が不快な思いをなさるようでは本末転倒です。た

くさんの方に快適に説明を聞いていただくためには、どのように環境を整えればよいかが準備段階において大きな課題となり、検討を重ねた結果、学園全体の協力を得て、さまざまな施設を使用して実施することとなりました。

高校のオープンスクールは、まず来場者全員に一堂に集まっていただし、学校方針や入試要項を説明させていただくのですが、その会場として第2体育館を使用。ギャラリーから巨大スクリーンを吊るして高輝度のプロジェクターからパワーポイント画面や動画を投影。また、後ろの参加者にも見えるようにという配

慮から、会場の後方サイドにも2枚のスクリーンを設置して3枚同時投影(写真①)。

その後は各コースに分かれての詳しい説明会です。キャリア進学コースの会場は最新設備を備えた大学・短期大学北館300教室(写真②)、スポーツコースは高校食堂2階(写真③)を使用しました。

5コースそれぞれの説明が終わった後には、大学図書館棟の1階～2階で特別



企画「ケーキバイキング」(写真④⑤)を行い、同時に3階では個別進路相談も実施しました。

このように学園の連携力を生かして、記録的な数の参加者をスムーズにご案内し、無事にオープンスクールを終えるこ



とができました。

そして、ハード面の整備に加えて、ソフト面では高校の生徒スタッフや教職員らの大きながんばりがありました。それぞれが各自の持ち場で笑顔を絶やさずしっかりと役割を果たした結果、参加者の皆様に良い印象を持っていただくことができました。アンケートには、「施設が整っていて良いと思った」「生徒さんや先生方の対応が素晴らしいと思った」という感想がたくさん書かれていました。元気で明るく素直な成蹊女子高校の生徒の良さが伝わったのだと感じています。更に「内部の短大や大学があるところが良い」という感想も多く、参加者の方にも学園の総合力を理解して頂けたように思います。

第9回こどもミュージカル 今年もピーターパンを上演



子どもたちに夢を！ 集大成のピーターパン

10月24日(金)、本校幼児教育コースの2年生全員による、第9回こどもミュージカル「ピーターパン」を行いました。この活動は、これまでのコース行事の集大成となるもので、生徒全員がそれぞれの役割を担ってミュージカルを完成させるという集団学習として位置づけ、例年実施しています。

スタンバイし、会場にこみち幼稚園の子どもたちが入ってくると、生徒たちのテンションが一気に上がりました。開演直後、ピーターパンが「みんな、応援してくれるかな？」と問いかけると、子どもたちは大歓声で応えてくれました。その様子に誰もが微笑ましい気持ちになり、会場は一層楽しい雰囲気になりました。

ミュージカルとブラックライトシアターが融合し、暗い中に浮かび上がる幻想的な眺めに子どもたちもうっとり。楽しいダンスもあり、生徒の生演奏もすばらしいもので、練習の成果を十分に発揮しました。全員がネバーランドに迷い込んだような夢の50分間を過ごすことができました。

ミュージカルを制作する過程では、辛いこともたくさんあったでしょうが、将来、生徒達が幼稚園・保育園の先生になって子どもの指導にあたるとき、今回のミュージカルの経験はかけがえのない財産として、きっと光り輝くことでしょう。

大阪成蹊女子高等学校
幼児教育コース



共に学び 共に育つ連携

高校幼児教育コース2年生の皆さんによるミュージカル公演にこみち幼稚園の年長児が招待されました。リズムカルにテンポよく物語が展開し、動きも言葉もわかりやすく、子供達は終始舞台の世界に引き込まれていました。そして何より生徒の皆さんが生き生きと躍動していることが、印象に残ったのではないのでしょうか。物語の中で子供達が参加できるような言葉を投げ掛けたり、学校を出る際には花道をつくってくださったりと、「幼児と関わる」ための工夫が随所にされており、学園内に幼稚園と高校があることの良さを改めて感じる事ができました。

この他にこみち幼稚園は、将来、保育園・幼稚園・小学校等の指導者を目指す生徒・学生のため、年間を通じて教育実習の場を提供し、指導をしています。幼児の世界に入り込み、じっくりと向き合う体験が初めての実習生がほとんどですが、戸惑い、悩みながら自分なりに幼児に寄り添っていこうとする姿からは、「やるしかない」という必死の思いと、「すごい指導者になりたい」という情熱が感じ取れます。その姿と思いは幼児へと伝

わり、「先生、遊ぼう」「先生、これはどうするの？」など、幼児が親しみの気持ちを抱いて心をひらいていきます。この瞬間から互いの気持ちが通じ合い、心の通った保育が始まります。幼児にとって大切な経験となる「人への信頼感をもつ機会」実習生にとっては「幼児理解を深める機会」。どちらにも有意義な学びと育ちが生まれます。

さらに、短大・大学の先生方や学生の皆さんと、それぞれの専門分野を通じて幼児だけでなく保護者も学びの機会をいただいています。体育館・プール・調理室など幼稚園にはない施設を利用させていただくこともあり、これも学園連携を通しての「共学・共育」の一面と捉えられと思います。

こみち幼稚園は高校・短大・大学のある相川から少し離れたところにありますが、大切なのは心理的距離だと思っています。これまでの連携の中で紡がれてきた絆を守りながら、これからも互恵性の高い新たな連携の形を追求してまいります。

こみち幼稚園 園長 東藤弥生

第4回大阪成蹊 アート&デザインコンペティション

レベルアップに感激



第4回大阪成蹊アート&デザイン・コンペティションの審査が行われ、各賞が決定しました。「未来への発信」というテーマのもと、全体として1500点に迫る作品の応募があり、中学生作品443点(応募校数61校)、高校生作品1017点(応募校数78校)という昨年を上回る大作・力作の応募がありました。これら多くの作品群は、コンペティションがスタートして以来、内容、技量ともに大幅にレベルアップしており、審査の場は白熱しました。

中学生の部の大阪成蹊芸術大賞は、大阪市立咲くやこの花中学校3年生の石津花華さんの細密な描写による社会的な提案性のあるイラストレーション『環境の家』Aが受賞しました。同準大賞は大阪の私立帝塚山学院中学校3年生の神戸春香さんの水草を幻想的に描いた『a boundary』Bが選ばれました。また、後援いただいている毎日新聞社賞には昨年も応募していた私立京都産業大学附属中学校2年生の室田屈さんの、自由をテーマに複雑なコラージュを駆使した『No Border』Cに

決定しました。

中学生の各部門賞(金賞)は、A部門(イラストレーション)で四條畷市立四條畷西中学校3年生久保梓紗さんの技巧に優れた美少女のイラストレーション『フローレンス』D、B部門(キャラクター・マンガ)で寝屋川市立友呂岐中学校3年生中山まりさんのマンガ家への夢を託したショートストーリー『未来へ・・・』E、C部門(美術作品)では大阪市立大正中央中学校2年生求結汰さんの炎暑の大阪をユーモラスに描いた版画『炎風鬼2』Fの各作品が受賞しました。さらに銀賞15点、銅賞15点、入賞25点が決まりました。

高校生の部では、力作ぞろいの応募作品の中から困難を極めながらも選考した結果、グランプリである大阪成蹊芸術大賞に徳島県立名西高校3年生の美馬匠吾さんのゲーム世代特有の感覚により仮想空間で繰り広げられるキャラクターたちの饗宴を描いた『Go to the future』Aを選びま



中学生 の部



した。美馬さんはさらにA部門で、連作になる『メテオ男の旅』で銀賞を受賞。E部門でも選にはもれたものの、緑のトーンでイルカの頭をもつ奇妙な生き物たちの世界を描いた秀作『Gift〜森から海へ〜』を出品しており、3点もの大作の出品に審査員をはじめ本学教職員の注目と称賛が集まりました。

同準大賞は京都府立亀岡高校3年生の上野裕二郎さんによる堂々とした大樹の生命力と周りの森を写実的に描いた正統派の油彩画『初夏の陽光』Bが選ばれました。高校生の部の毎日新聞社賞には、三重県立飯野高校2年生須藤真未さんの、シャッター商店街を極彩色で描いて廃墟のもつ生命力の痕跡とその魅力を描いた『廃墟萌え』Cに決まりました。各部門賞としてA部門(ビジュアルデザイン)は大阪府立三島高校3年生小川紗季さんのアリスに登場するおかしなお茶会にヒントを得たイラストレーション『変なお茶会』D、B部門(マンガ・アニメーション)は大阪成蹊女子高校3年生藤原優花さんの奇妙なアルパカのペット

の交情を描いた4コマ連続マンガ『パカ夫』E、C部門は同じく大阪成蹊女子高校3年生松井ひかるさんのコンピュータで色彩を調整してモノクロームのように女の子を撮影した『aka』F、D部門(ファッション・インテリア・プロダクトデザイン)は大阪成蹊女子高校3年生岩尾明日香さんの和服とセーラー服の融合したロリータドレスの『1902』G、E部門(美術・工芸)は私立関西文化芸術学院3年生の山中茉莉奈さんの藍玉の発酵酵母にかぶれた少女を描いた絵画作品『藍に触れる』Hにそれぞれ決まりました。さらに銀賞21点、銅賞19点、入賞30点が決まりました。

また、中学校の部および高校生の部それぞれに応募作品の指導と出品にご尽力いただいた学校に対して「学校賞」を贈りました。お礼とともに喜び申し上げます。

出品いただきました中学校、高等学校の生徒および先生の皆様方には、ぜひとも来年も奮ってご応募いただきますようお願い申し上げます。

大阪成蹊大学 芸術学部長 澤田克之

——スポーツビジネスコースを志望した理由を教えてください。

藤本 プロ野球が好きで、球団経営などに興味があって入学しました。具体的に就きたい職業は考えている途中で。

福村 僕は、高校のクラブの顧問の先生から受けた影響が大きいです。“する”スポーツはもちろん“支える”スポーツも勉強になる、と大阪成蹊大学を薦めてもらいました。「クラブのマネージャーや審判、競技の運営者などスポーツを支える人たちの仕事は人の力や輪がとても大切で、競技よりも難しい」と顧問から聞き、僕は元々新しいことに挑戦するのが好きなので、ぜひ入学したいと思いました。

永山 私も選手や体育の先生以外にもスポーツを支える仕事があることを知り、スポーツビジネスコースを志望しました。陸上部に所属していますが、今後はサッカーやバレーボールなどの球技の普及、2020年のパラリンピックのサポートにも関わっていきたいです。

福村 僕も長崎国体の「全国障害者ス

ポーツ大会」のサポートに行きました。

——入学してよかったと思うことは？

手塚 上田滋夢教授の授業です。内容は基本的に難しいのですが、“支える”スポーツに近づいている感じがします。あとは植田真司教授の「スポーツ用具論」もおもしろいです。テニスや卓球のボールの作り方を教わったのですが、思っていたものと違うので驚きました。

小島 毎週のレポート提出です。1年生の時から積み重ねると、はじめはわからなかった流れのつかみ方や書き方のコツがつかめてきて、プレゼンの力もついてきた気がします。先生自身、スポーツの現場で働いている方もいて、現場の話を聞けたりプロ選手をゼミの研究室につれてきてくださいます。そんな機会が他の学校にはなかなか無いと思うのでいい経験になっています。

——逆に、たいへんと思うことは？

永山 クラブと勉強の両立は正直難しいです。でも授業で学んだこととスポーツは必ず繋がっていると考えて、見る視点を変えると勉強も楽しく



現在と未来

スポーツビジネスコース学生が語る

なってきます。

手塚 3年生に進級すると、就職活動との両立も問題になります。自分たちの就活によって後輩の今後が決まってくると思うと失敗はできませんが、でもそれでクラブの練習に身が入らないのもよくないと思います。限られた24時間の中で、クラブ活動のこと、私生活のことなど、今後の人生をしっかりと考えないといけないのは大きいです。

——助けてくれる人はいますか？

手塚 たくさんいます！ とくにスポーツビジネスコースの先生方は本当に親身になってくださいます。「こういうところに就職したい」と言ったら「知り合いがいるから話を聞こうか」と言ってくれる先生も多く、突き放されるようなことは一度もないです。

小島 先生と学生の距離が近いんです。お互いが信頼できる、深いところまで知っていただけるというのはありがたいです。
山内 実際3年生になって就職活動とクラブ活動の両立は大変なのだろうと思いますが、先輩たちがそんな姿を私たちに

見せないようにしてくれているので不安を感じることはないですね。

——来年の抱負を聞かせてください。

藤本 今年はゼミ内のまとめ役になったのですが全然上手くできませんでした。失敗を経験できたということが思い出に残るいい1年になりました。校内の「簿記塾」でも勉強しており、3年生になるまでに簿記2級に合格したいです。

小島 スポーツ業界から必ず内定をもらいます！

手塚 クラブで好成績を残すことと、同時に人間力も身につけていきたいです。
福村 2年生になると後輩も入ってくるので、模範的な行動ができるようになっていきます。

山内 来年は世界陸上やユニバーシアードなど、世界的な大会があります。大阪成蹊代表からさらに日本代表選手になることが目標です。

永山 全日本インカレでいい結果を出して、全日本選手権で実業団の方と試合ができるようにしたいです。



●永山 優さん／2年
(近畿大学附属高等学校出身)
陸上競技部

●福村 朋基さん／1年
(大阪府立摂津高等学校出身)
陸上競技部

●手塚 麻柚さん／3年
(大阪市立浪愛高等学校出身)
陸上競技部

●小島 嵩史さん／3年
(京都市立紫野高等学校出身)

●山内 愛さん／2年
(神奈川県立小田原城北工業高等学校出身)
陸上競技部

●藤本 紬人さん／2年
(京都市立紫野高等学校出身)